

YIA4 当院で行った皮膚病変を有するサルコイドーシス患者におけるPET検査の有用性

○谷村裕嗣¹⁾, 水野可魚¹⁾, 岡本祐之¹⁾, 宇都宮啓太²⁾関西医科大学 皮膚科¹⁾
関西医科大学 放射線科²⁾

サルコイドーシスは同時性あるいは異時性に多臓器病変が生じる肉芽腫性疾患である。そのため各診療科において定期的に全身精査を行うことが重要である。今回、皮膚病変を有するサルコイドーシス患者21例において10時間以上の絶食/ヘパリン投与の条件下でFDG-PETを施行し、その有用性を検討した。

新規のサルコイドーシス病変としては12例で心病変、6例で筋病変発見された。さらに内臓悪性腫瘍が2例(盲腸癌1例, 胃癌1例)検出された。

心病変12例中10例は心電図, 心エコーで異常を認めずFDG-PETでのみ病変が確認された。1例は心電図でも異常があり, 他の1例は心エコーにて大動脈弁狭窄症を認め, 弁置換術を行い, 術中の心筋標本でサルコイド肉芽腫を確認した。

胃癌の症例では, 胃大網リンパ節にもSUV値の上昇があり, 組

織学的にサルコイドのリンパ節病変であった。

以上の結果から皮膚病変を有するサルコイドーシス患者でのFDG-PET検査は心電図, 心エコーで異常のない初期の心病変を半数以上で発見でき, さらに自覚症状の無い他臓器病変も発見できることから非常に有用であると考えられる。

YIA5 サルコイドーシス患者の硝子体液サンプルを用いた診断有用性について

○丸山和一¹⁾, 稲葉 亨²⁾, 國方彦志¹⁾, 望月 學³⁾, 中澤 徹¹⁾東北大学 眼科¹⁾
京都府立医科大学 臨床検査部²⁾
東京医科歯科大学 眼科³⁾

【目的】サルコイドーシスは眼病変を伴うことが多く, 時には眼病変が病初期に発症し発見される事がある。しかし眼病変が主体で他の検査所見が得られず, 眼サルコイドーシスとして診断されることがしばしばある。我々はサルコイドーシス組織診断を得られた同一患者の硝子体液と気管支肺胞洗浄液のCD4/CD8比について検討を行った。

【方法】対象はサルコイドーシス組織診断患者で, 気管支肺胞洗浄検査と硝子体手術を施行し, フローサイトメトリーにて検査を行った同一患者12例(男性2例, 女性10例, 平均年齢67.5歳)におけるCD4/CD8比について検討を行った。

【結果】気管支肺胞洗浄液検査は11例が硝子体手術前に施行し, 1例が硝子体手術後であった。肺胞洗浄液より得られたCD4/CD8

比は8.90であったのに対し硝子体手術において得られたCD4/CD8比は117.7と有意に高値であった ($p=0.0104$)。

【考按】硝子体手術にて得られたサンプルを用いたフローサイトメトリー検査におけるCD4/CD8比は, 肺胞洗浄液検査より有意に高く診断的価値があるものと考えられる。

YIA6 サルコイドーシス患者におけるToll-like receptor 3 一塩基多型の検討

○池添浩平¹⁾, 半田知宏¹⁾, 谷澤公伸²⁾, 久保 武³⁾, 伊藤功朗¹⁾, 祖開曉彦¹⁾, 中塚賀也¹⁾, 長井苑子⁴⁾, 泉 孝英⁴⁾, 三嶋理晃¹⁾京都大学大学院 医学研究科 呼吸器内科¹⁾
京都大学大学院 医学研究科 呼吸管理睡眠制御学講座²⁾
京都大学大学院 医学研究科 放射線医学講座³⁾
公益財団法人健康管理研究会 中央診療所⁴⁾

【背景】サルコイドーシスはTh1系免疫反応に起因する原因不明の肉芽腫性疾患である。Toll-like receptor 3 (TLR3) は, Th1免疫反応あるいは線維化に関与している可能性がある。

【目的】サルコイドーシスにおけるTLR3一塩基多型の役割について検討した。

【方法】220例のサルコイドーシス患者と140例の健常者コントロールについて, *TLR3* rs3775291一塩基多型を同定し, サルコイドーシスの疾患感受性との関連について解析した。また, 診断後2年以上経過観察したサルコイドーシス患者172例について, 一塩基多型と臨床像との関連を検討した。

【結果】*TLR3* rs3775291 遺伝子型は, サルコイドーシスの疾患

感受性との有意な関連を認めず, また肺線維症の発症とも関連しなかった。一方, TT genotypeの患者 ($p < 0.01$) もしくはT alleleを有する患者 ($p = 0.03$) に有意に心病変の頻度が多かった。

【結語】*TLR3* rs3775291一塩基多型は, サルコイドーシス疾患感受性との関連を認めなかったが, 心サルコイドーシスと関連する可能性がある。